

Newsletter

JAPAN SOCIETY OF EDUCATIONAL INFORMATION

日本教育情報学会

NO.120 2007.3.23

〒500-8813 岐阜県岐阜市明徳町10番地 杉山ビル4F 岐阜女子大学 文化情報研究センター内
日本教育情報学会 運営本部事務局 Tel:058-267-5233 Fax:058-267-5238
E-mail:nkjg@gi.jodai.ac.jp http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsei

日本教育情報学会第23回年会

8月20日(月)～21日(火)【常磐大学】において開催!

年会テーマ ～ 教育改革と教育情報 ～

年会費お支払いのお願い

会費の振込用紙を同封いたしますので、手続きをお願いいたします。本学会は会員の皆様からの会費によって運営されております。学会の正常な運営のためにも、趣旨ご理解の上、お早めに手続きをいただきますよう、ご協力をお願いいたします。なお、2006年度までの会費のお支払いが、まだお済みでない方は、新年度会費と合わせて手続きをお願いいたします。(お支払いいただいた後、振込金受領書は大切に保管してください)

事務局移転(平成18年4月1日)に伴い、口座番号も変更になっておりますので、ご注意ください。

退会される方に

退会届の特定の書式はございません。退会される方は、A4の用紙に 会員番号、氏名、印、届出日、退会期日(年度)、退会理由、その他(連絡が必要だと思われる事項)をご記入いただき、事務局あて、郵送またはFAXでお送りください。

なお、未払いの過年度分会費は、お支払いくださいますようお願いいたします。

また、退会後にも過年度中に発行予定の刊行物を送付する場合がありますので、ご了承ください。これらも一切不要の場合は、退会届にその旨をご記載ください。

学会誌「教育情報研究」の投稿要領・投稿手続き・執筆手順が新しくなりました。

今後の学会誌への投稿については、新しい【投稿要領】をご確認のうえ、【投稿手続き及び執筆手順】に従い、【投稿票】を添えて、運営事務局に投稿ください。

なお、投稿票はホームページ <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsei> からダウンロードできます。

＝ 日本教育情報学会第23回年会 ＝

8月20日(月)～21日(火)常磐大学において開催

本年度の第23回年会は、8月に常磐大学を会場に開催いたします。本日、大会の概要と研究発表の応募に関する内容をお知らせいたします。

下記の要項をご熟読の上、期限内に手続きしていただきますようお願いいたします。江戸時代の学問の府だった茨城県・水戸の地においでいただき、ご参加とご発表をされること、心よりお待ちしております。

期 日 : 2007年8月20日(月)・21日(火)

会 場 : 常磐大学

所在地 〒300-8585 茨城県水戸市見和1-430-1 (029-232-2511 代表)

交通 JR常磐線「水戸駅北口5番バス乗り場から自由ヶ丘下車

(所要時間約20分)

http://www.tokiwa.ac.jp/info/frame_a.html

事務局 : 常磐大学 (現段階では)国際学部・堀口研究室内

日本教育情報学会第23回年会実行委員会

Tel:029-232-2940 E-mail:horiguti@tokiwa.ac.jp

年会テーマ : 「教育改革と教育情報」

日 程 (時間は予定)

8月20日(月) 1日目		8月21日(火) 2日目	
9:30	受付開始	9:30	受付開始
10:30～12:00	基調講演	10:00～12:00	課題研究発表 一般研究発表
12:00～13:00	昼食・休憩 (理事会・評議員会)	12:00～13:00	昼食・休憩
13:00～14:00	総会・学会賞表彰式	13:00～15:00	課題研究発表 一般研究発表
14:00～15:30	パネル討論		
15:30～17:30	課題研究発表 一般研究発表	15:00～17:00	課題研究発表 一般研究発表
18:00～	懇親会		

基調講演の時間は確定ではありません。課題研究・一般研究発表(1)が午前中で。基調講演が午後になるかもしれないことをご了解ください。

(1) 基調講演

教育改革のゆくえ」

布村幸彦（文部科学省大臣官房審議官）

[趣旨]

21世紀も6年が過ぎ、昨年より安倍内閣のもとで、教育改革が進められている。好ましい教育制度、教育内容、教育方法について中央教育審議会や教育再生会議で精力的に検討を進められているが、変化や議論も多く、その方向性や内容については把握しにくい状況である。基調講演では改革に直接かかわっておられる布村先生に教育改革の考え方や方向性にお話しいただく予定です。昨年後半に表面化した必修科目の高校教科「情報」の未履修もあり、情報モラル教育、個人情報保護、情報教育の教員養成や現職教育、基本情報処理やシステムアドミニストレータやデジタル・アーキビストなどの資格に関わる教育など、学会のかかわる分野と無関係ではあり得ない。教育情報や情報教育に携わる教員及び研究者一人ひとりが教育改革をどのようにとらえ、どのようにかかわっていくのか、行動していけばよいのかを考える機会になればと願っている。

(2) パネル討論

テーマ「教育情報とその流通」

コーディネータ：有蘭 格（予定）

パネリスト：パネリストは折衝中

デジタルコンテンツ関係、図書館・博物館情報関係、学習情報関係、学術情報関係

[趣旨]

本学会の中心的テーマである教育情報に関しては、現在、多種多様な情報が電子化され、提供されている。しかしその存在や内容を学会員が正確に把握しているわけではない。信頼性のある情報はしっかりした検討と組織のもとに創り出されるもの。どこでどのような情報が電子化され、提供されているのか、それに直接関わっておられる方をパネリストとしてお招きし、そのねらいと工夫と努力と、その活用についてお話しいただく予定。また同様なコンテンツとしてほかにもどのような情報があるかもご紹介いただき、参加者全員にとって役立つ情報を得ながら、21世紀の「教育情報とその流通」の在り方について考えたい。

(3) 課題研究テーマ

課題1 教育で使えるテクノロジーと教育方法

コーディネータ：井口磯夫(十文字女子大)

社会や家庭ではブロードバンドのインターネットが当たり前になってきた。ユビキタス学習社会の実現に向かって、情報インフラが整いつつある中で様々な課題も表出されている。携帯端末を使った授業アンケートや、学習反応分析を授業に生かす教育方法も実践されている。e-黒板やe-教科書を使った授業は従来の授業に比べてどのような教育的効果があるのだろうか。e-LearningはかつてのCAIを凌ぐ効果を挙げているのだろうか。これらの課題に対する実践報告を期待したい。

課題2 情報関係のカリキュラムと資格取得

～現在の情報教育は情報社会のニーズにどの程度対応しているか～

コーディネータ：久世 均（岐阜女子大）

即戦力の人材を養成して欲しい企業側と、人的、時間的リソース、制度上の問題などから基礎的な教育を指向する教育機関側の意識の食い違いが両者のミスマッチを拡大させている。このよ

うなミスマッチ解消に向けて、継続的な教育の実施と知識やスキルを定量化し可視化するための資格試験制度や更新制度の導入，企業と教育機関の連携のあり方と行政の支援のあり方について検討することが課題となっている。このような情報関係の資格試験とその養成カリキュラムの概要と実施状況について議論し，今後の情報社会のニーズに対応した情報教育の方向性を考える。

課題3 情報技術による教育のユニバーサル化～特別支援教育の向上を目指して～

コーディネータ：太田容次（国立特別支援教育総合研究所）

このセッションでは，昨年12月に国連総会において採択された「障害者権利条約」で述べられているように，支援技術（AT）等の活用により，障害のある人の活動や参加を支援するための教育が求められている。このような状況において，様々な特別な教育的ニーズのある子どもの教育に対応した教材や教具，教育方法等教育のユニバーサル化をどのようにすればよいかを提案し議論する。

課題4 教育効果の測定と評価の方法

コーディネータ：林 徳治（山口大学）

教育工学的（Plan-Do-Check-Action）なアプローチにより研究を行う際に仮説を実証する手法は，母集団を対象として統計による数量的な分析や個を重視した質的なアプローチがある。本セッションでは，教育情報を扱う事例研究において，その成果を測定する評価内容や方法について扱う。そこでは，総括的評価やポートフォリオなど形成的評価，タキシノミーなど情意領域における評価内容や方法についても議論を深めたい。

課題5 情報モラル・著作権等

コーディネータ：坂井知志（常磐大学）

教材開発，データベース，学校行事など全ての教育活動が著作権や肖像権，個人情報保護などを遵守しなければならない。情報モラルを生徒にどのように教えていくかについての実践や教員自らの教育活動が情報モラルをどのようにして遵守しているのかについて様々な提案をしていただくとともにそのことが教育上望ましいことかについても議論する。また，情報モラルについての学会調査の結果について報告をしていただく。

（4）一般研究発表

- ・ 発表内容は「教育情報に関する研究」であれば，特に内容は問いません。「教育情報」は，大きくみて「教育に関する情報」と「情報に関する教育」が含まれています。
- ・ 想定される発表セッション（キーワード）は次の通りです。（五十音順）
- ・ 応募状況に応じて，7セッション程度を設定する予定です。

インターネット，遠隔教育，遠隔教育システム，学習ソフトウェア開発（教育用ソフトウェア），学習情報管理システム，学習評価，教育システム，共同学習（遠隔協働学習），交流学习，授業分析，児童による情報作成，生涯学習，情報教育（カリキュラム論を含む），情報教育システム，情報教材開発（コンテンツを含む），情報検索，情報処理教育，データベース，動画教材の開発，ネットワーク（活用，管理，LAN），プレゼンテーション，ホームページ，マルチメディア（活用，開発等），国際貢献・協力，国際理解，知的財産権，プライバシー，情報カテゴリー，eラーニング

(5) 研究発表申込み方法

申込締切

2007年5月10日(木)

申込方法

課題研究は「課題研究発表申込書」(8ページ)、一般研究は「一般研究発表申込書」(7ページ)に必要事項をご記入の上、年会実行委員会事務局へ郵送してください。

課題研究に関する注意事項

- ・課題研究は前記「課題研究テーマ」から選びそのテーマに合った研究発表題目をつけてください。
- ・課題研究発表は年会実行委員会で調整し、テーマごとに担当コーディネータが検討し、審査します。その結果、発表否となる場合もあることをあらかじめご了承ください。なお、課題研究として発表できない場合には、一般研究を別に申し込んでいても課題研究分を一般研究発表として発表していただくことのできる場合もあります。
- ・第1発表者(講演者)として課題研究発表は、1人につき1件のみとします。ただし、年会実行委員会から特に依頼された課題研究発表についてはこの限りではありません。

一般研究に関する注意事項

- ・第1発表者(講演者)としての一般研究発表は、1人につき1件のみとします。
- ・一般研究発表の発表者は、発表の時点で会員である必要があります。非会員の方は、事前に学会入会の手続きをしてください。学会入会申込書は年会事務局にご請求ください。

発表申込書の書き方について

- ・講演者とは、研究発表会場で口頭発表する会員です。
- ・共同研究者は何人でもかまいません。
- ・概要はなるべく詳細に書いてください。
- ・キーワードとして、前記発表セッション名の中から数語を含めて10語以内を選んでください。
- ・会場で使用できる機器は、プロジェクタ、書画カメラです。パソコンは各自で持参してください。使用する場合には持参する機器の欄に記入してください。
- ・執筆要項などの送付先は、発表者への連絡時期である6月上旬を想定して、自宅または勤務先に をしてください。

(6) 発表者への連絡

発表者には、6月上旬までには発表の可否を連絡します。

発表を可とされた申込者に対しては、論文の執筆要項をお送りします。

論文の原稿枚数は2枚または4枚とします。原稿は「年会論文集」の版下の形で、ワープロ出力したものを提出していただきます。

(7) 参加費について

- ・会員事前申込締切日まで

参加費 3,000円 資料代 3,000円 懇親会費 5,000円(予定)

- ・会員(当日)・非会員

参加費 4,000円 資料代 3,000円 懇親会費 5,000円(予定)

参加申込みは、後日送付する「年会参加申込書(兼)参加費振込用紙」(郵便振替)をご利用ください。

(8) 宿泊について

- ・宿泊に関しましては、各自で手配いただきますよう、お願い申し上げます。

・次号 Newsletter に、最寄のホテルをご案内します。

(9) これからのスケジュール(予定)

- 発表申込締切 2007年5月10日(木)
- 発表決定通知 2007年5月22日(火)
- 論文提出締切 2007年7月10日(火)
- 参加申込締切 2007年8月10日(金)(=参加費支払締切)

発表申込書送付先・問い合わせ先

〒310-8585 茨城県水戸市見和1-430-1 常磐大学 国際学部 (Qs309室)
日本教育情報学会第23回年会実行委員会 実行委員長 堀口秀嗣
Tel:029-232-2940 E-mail:horiguti@tokiwa.ac.jp

* * * * * 研究会活動報告 * * * * *

2月11日(日)10:00から、岐阜女子大学文化情報研究センターにおいて、第1回デジタルアーカイブズ研究会(参加者約50名)および、第1回木田宏教育資料研究会(参加者約40名)が行われました。

○第1回 デジタルアーカイブズ研究会

- テーマ 知的財産とデジタル・アーキビストの養成
- 発表内容
- ・文化情報のデジタル・アーカイブの実践的研究[]
 - 「延年の舞」における所作の伝承からの考察 -
 - ・文化情報のデジタル・アーカイブの実践的研究[]
 - 「郡上踊」における民俗芸能の伝承からの考察 -
 - ・地域の芸能文化のデジタル・アーカイブ化 - エイサー 沖縄の盆踊り -
 - ・道の駅デジタル・アーカイブを用いた地域文化情報資源活用の研究(1)
 - 地域文化情報, 観光文化情報, 教育文化情報の集積・発信基地として -
 - ・デジタル・アーカイブの構成・利用に関する評価
 - ・白川郷和田家オーラルヒストリーのデジタル・アーカイブ - その視点と方法 -

○第1回 木田宏教育資料研究会

- 発表内容
- ・「旧教育基本法の審議等での徳目・規範の法律化の適否について
～木田宏教育資料のデジタル・アーカイブ化の検討～
- 展示資料
- ・木田宏教育資料 1～15巻 (昭和22年～平成15年)
 - ・木田先生を偲んで - 「木田宏オーラルヒストリー」 - DVD・閲覧の手引き

年会一般研究発表申込書

日本教育情報学会

研究発表 題 目			
会員番号	講演者 氏名	所 属 ・ 職 (学生の場合はその旨を明記)	
共同研究者 氏名(所属・職)		キーワード (10 語以内)	
概 要 (研究の特徴を具体的に)			
発表に必要な機器 (該当するものの番号に)		持参する機器	
1 プロジェクタ 2 書画カメラ (O H C)			
執筆要項などの送付先・連絡先 (自宅・勤務先ともご記入ください)			
[自 宅]			
(住 所) 〒			
(電 話)		(F A X)	
(E-MAIL ID)			

[勤 務 先] (学生の場合は、所属研究室などを明記してください)			
(住 所) 〒			
(電 話)		(F A X)	
(E-MAIL ID)			
希望する送付先	・ 自 宅 ・ 勤 務 先 (どちらかに)		

年会課題研究発表申込書

日本教育情報学会

研究発表 題 目			
会員番号	講演者 氏名	所属・職(学生の場合はその旨明記)	キーワード(3語)
共同研究者 氏名(所属・職)	課題(該当する課題の番号を で囲む)		
	1 教育で使えるテクノロジーと教育方法 2 情報関係のカリキュラムと資格取得 3 情報技術による教育のユニバーサル化 4 教育効果の測定と評価の方法 5 情報モラル・著作権等		
概 要(発表内容が課題とどのようにかかわるかがわかるように)			
発表に必要な機器(該当するものの番号に)		持参する機器	
1 プロジェクタ 2 書画カメラ(OHC)			
執筆要項などの送付先・連絡先(自宅・勤務先ともご記入ください)			
[自 宅]			
(住 所) 〒			
(電 話)		(F A X)	
(E-MAIL ID)			
[勤 務 先] (学生の場合は , 所属研究室などを明記してください)			
(住 所) 〒			
(電 話)		(F A X)	
(E-MAIL ID)			
希望する送付先	・ 自 宅 ・ 勤 務 先 (どちらかに)		